

平成22年度施政方針

危機に負けない

まちづくり



はじめに

3月の播磨町議会定例会にて、平成22年度施政方針が清水町長より発表されました。

第3次播磨町総合計画に掲げた「まちの将来像」の5つの柱に沿って本年度の主要な事業を説明している施政方針の全文は、ホームページに掲載しています。ここでは、「はじめに」及び「今年度予算の5つの基本とする柱」として所信を紹介いたします。

昨年9月に実施されました衆議院議員総選挙において、政権交代という大きな国政の変化が行われました。その後公開の場でフェストに関する予算の執行などで、今改めて、私たちは政権交代の意味と地方自治体に及ぼす影響を実感しております。新政権の「コンクリートから人へ」という理念の下にこれまでの国の事務執行を大きく転換させる場面が多々生じてきております。新政権が最重要課題として掲げた「地域主権」の確立に向けた動きが今年から本格化

し、夏にはその基本方針となる「地域主権戦略大綱」の策定が予定されており、今後、国と地方との関係が改めて見直されるものと考えております。一方、一昨年来続いておりま

す経済不況は依然として厳しい状況にあり、景気の後退や雇用情勢の悪化など、社会全体に暗い影を投げかけております。このような状況下、社会の好不況が反映する町税収入は今年度も依然として好転が期待できない状況にあり、大きな減収が見込まれております。一方、歳出は医療や福祉などの行政需要が拡大していくことが必至であり、平成20年度決算においては、財政構造の健全性の指標となる



▲防災マップを
ご活用ください

計画」を現在策定中でございますが、策定にあたっての住民アンケートなどで寄せられました、播磨町住民が住みよいと感じる町の実現に一步でも近づければと思っております。

1. 平常時からの危機管理 「安全・安心のまちづくり」

昨年は新型インフルエンザの影響で社会全体に大きな混乱が生じた年でした。播磨町におきましても20数回の対策本部会議を開催いたしました。また、近年の異常気象はゲリラ豪雨など予測がつかない状況が発生し、大きな被害をもたらすことが各地で起きております。



▲防災訓練(役場)

本町のように都市化する町ではさらに手薄になりがちな防災体制の確立が急務になってきております。平常時においても危機管理体制を常備し、緊急時への対応をさらに強化するために、今年度中に危機管理部門の新体制を確立したいと考えております。

本年度更新する防災行政無線の屋外拡声子局の増設で災害時の情報提供を充実させることも、現在活動されている常備消防、消防団、自治会自主防災組織、各種団体、企業などとの連携の要となる部門の設置を早急に検討してまいりたいと考えております。また、本年3月に全戸配布い

たします地震・風水害に係るハザードマップを参考として住民の方々にも危機管理へのご理解を深めていただき、官民ともに協同で進める危機管理体制が真に災害に強いまちづくり「安全・安心」につながるものと思っております。

2. 子どものいのちを育む 「子育て支援」

本町の子育て・教育現場での行政が担う最優先課題は「子どものいのちと安全」を守ることにあると思っております。本年度播磨西幼稚園の改築工事を実施いたしますが、それが終了いたしますと、本町においては、



▲防災訓練での炊き出し(播磨小学校にて)
(日本赤十字社 播磨町分区)

すべての町立学校・園においての耐震化が完了いたします。懸案でありました中学校給食についても、食という観点から、「子どものいのちを育む」という意味で将来にわたって大きな効果があるものと期待しております。今年度中の実施に向けて鋭意取り組んでまいりたいと思っております。学童保育事業につきましては、子育て支援は一貫して行わなければならないという観点から、小学校期における留守宅児童支援の必要性を強く認識しており、国、県にも働きかけさらなる支援を要請するとともに、町として現在公設化に向けて保護者と共に協議を進めております。



▲公共交通の充実が望まれています



▲町道浜幹線道路予定地



▲子どもたちが期待しています
(播磨ゆめづくり塾 エコアップ塾より)

高齢化が進む中で、町内都市施設の充実、公共施設の整備、生涯学習の推進とともに活動的な高齢者も増え、交通の利便性を望まれる方々も増えてまいりました。また、交通弱者へのさらなる配慮も必要な時代となつてきております。町民とのタウンミーティングなどで必ずといっていいほど要望が出される

4. 外出が楽しくなる 「交通の利便性」

移動手段の一つ「コミュニティバス」については、既存のバス路線の充実に取り組み中で地域公共交通会議などを通して調査、研究してまいりたいと思っております。

また現在、主要事業の一つとして鋭意進めております「浜幹線事業」につきましては、東西のみならず生活道路も含めた町内交通環境の大幅な改善が期待されることから、現在未買収地の用地確保に努め、早期完成を目指してまいりたいと思っております。

住宅用「太陽光発電」につきましては、今年度より助成を開始し、各ご家庭における地球温暖化防止対策を支援してまいります。また、平成21年度から進めてきております学校園における「太陽光発電」につきましては、今年度中にするすべての幼稚園、小学校、中学校での設置を完了

し、児童生徒の環境教育に役立てたいと考えております。さらに庁舎のベランダ等にゴーヤなどの植物を植えて「緑のカーテン」を実施したいと考えております。すでに漁業組合のご協力を得てネット替わりとなる網をご提供いただいているところでございます。また、職員のエコ意識を高め、燃料の削減にもつなげることを目的として、職員対象の「エコ講習」なども実施してまいりたいと思っております。

特別支援教育につきましては、昨年開校いたしました県立東はりま特別支援学校や他市町との連携を深め、さらなる充実を図ってまいります。また、今年5月に学校敷地内にオープンいたします「東はりま交流支援センター(仮称)」を、新たな福祉活動や地域交流の場、また障がい児支援の場として位置づけ、活動を推進します。障害があっても強く生きようとする「いのち」の輝きをサポートできる場として、

学校通学路や学校園周辺環境についても引き続き安全面での配慮を重ねてまいります。今年度は播磨幼稚園北側の山陽電鉄「大中踏切」について歩道拡幅工事を実施いたします。

播磨町のイメージキャラクターである「やよいちゃん」「いせきくん」のゆるキャラを作成し、まちのPRとイメージアップにつなげてまいりたいと考えております。また、昨年度実施いたしましたプレミアム商品券も1週間ほどで完売し、大変好評であったことから、今年度も同額のプレミアム商品券を発行

3. 誰もが笑顔になれる 「まちの元気づくり」

本町の子どもたちが周囲に温かく見守られ、大切に育まれ、健やかに成長するよう支援する子育て予算でありたいと思っております。

また、播磨町固有のまつりとして、年々参加者も増え、盛大になってまいりました「大中遺跡まつり」が今年度20回目を迎えます。播磨町民の誇りとなり、播磨町を全国的にアピールする大きなイベントとして、さらに充実してまいりたいと思っております。昨年、野添であい公園に設置しました「健康遊具」を、今年度は石ヶ池公園に新たに設置いたします。健康維持・増進のためにご利用いただければと思っ



▲はっちゃん！ わんぱくまつりにて
(播磨町学童連絡協議会)



▲大中踏切



▲播磨町のイメージキャラクター
いせきくんとやよいちゃん



▲大中遺跡まつり